

# 『事例でおさえる民法 改正債権法』

---

(TT・学部生・10代)

改正債権法の条文の文言が抽象的であり、どのような場面で適用するかわからないことが多くありました。そこで、事例を用いて改正法を解説する本書を読みました。

講義でわからない場所や問題を解くときにわからない箇所があるときに本書で確認をしました。本書は入門書ではないため、内容を理解するためには、例えば、代理の有効要件や制度趣旨といった基本事項を理解していることが必要でした。しかし、それらを理解していれば、ある条文がどのような場面で適用されるか、そしてその適用の際にどのような問題が生じるかを容易に把握することができます。他の教科書では示されることが少ない改正債権法において生じる問題点を学生でも入手しやすい文献の見解を示した上で、著者の私見が提示されている点がよかったです。

本書最大の特徴は項目ごとにコンパクトにまとまっているにもかかわらず、事例が豊富な点です。一つの条文についてさまざまな事例が掲載されています。これらの事例と解説を利用して、自分の理解を補うことができました。条文を使う場面がわからない人にとって良い勉強になる本だと思います。